Sp-012　　**会場：C417**　　**時間：6 月 5 日　12:00-12:15**

Seismic Kanto プロジェクト ～（その 1）首都圏強震動総合ネットワーク～

Seismic Kanto project -- Part 1: the Metroporitan Area Strong Motion Network --

 # 鷹野　澄[1]，山中　佳子[1]，菊地　正幸[1]，纐纈　一起[1]，古村　孝志[2]，工藤　一嘉[2]，卜部　卓[1]，武尾　実[1]

Kiyoshi Takano[1], Yoshiko Yamanaka[1], Masayuki Kikuchi[2], Kazuki Koketsu[3], Takashi Furumura[2], Kazuyoshi Kudo[4], Taku Urabe[2], Minoru Takeo[2]

[1] 東大・地震研，[2] 東大地震研

[1] ERI, Univ. of Tokyo, [2] ERI, Univ. Tokyo, [3] Earthq. Res. Inst., Univ. Tokyo, [4] Earthq. Res. Inst.,Univ. Tokyo

我々は、自治体等の協力を得て、首都圏の強震計・震度計の波形データを収集する”首都圏強震動総合ネットワーク”を構築した。我々はこれらの波形データを活用して、Seismic Kanto プロジェクトを開始した。

本プロジェクトでは、首都圏の広域かつ高密度な強震動波形データを用いて、地震発生時の首都圏の地下構造と波動伝搬、強震動生成の関係を解明する。これを積み重ねて首都圏の詳細な地下構造と地震発生のマスターモデルを構築する。最終的には、大きな地震が発生した場合の各種被害分布の正確な推定や評価などを可能にすることを目的としている。

1995 年阪神大震災以降、自治体・公共企業等を中心に、多数の震度計や強震計が全国に設置された。首都圏においても、各自治体や消防庁等によって各市町村に一箇所以上の震度計や強震計が設置され、大地震発生時における各自治体等の初動体制に活用されている。そこで我々は、各自治体等の協力を得て、平成 11 年度補正予算で、これらの強震計・震度計の波形データを収集する”首都圏強震動総合ネットワーク”を構築した。これにより首都圏に広範囲にかつ高密度に設置されたネットワークとなった。収集の対象となる強震計・震度計観測点は約 450 点にのぼる。

我々はこれらの波形データを活用して、Seismic Kanto プロジェクトを開始した。Seismic Kanto プロジェクトでは、首都圏の広域かつ高密度な強震動波形データを用いて、地震発生時の首都圏の地下構造と波動伝搬、強震動生成の関係を解明する。これを積み重ねて首都圏の詳細な地下構造と地震発生のマスターモデルを構築する。最終的には、大きな地震が発生した場合の各種被害分布の正確な推定や評価などを可能にすることを目的としている。本プロジェクトでは今後、実用的強震動シミュレーションシステムの開発、日常的に観測された強震動波形データを用いたモデルの改良等を進めていく。